

文楽『曾根崎心中』の受容に関する一報告—スペイン王国と国内（大阪地域）を対象に—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kasai, Tsukasa, Oya, Sonia Keiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00050970

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



文楽『曾根崎心中』の受容に関する一報告 —スペイン王国と国内（大阪地域）を対象に—

人間社会環境研究科 客員研究員

笠井 津加佐

金沢大学 非常勤講師

雄谷ソニア啓子

要旨

本稿は、日本伝統文化の海外普及には何が必要かを追究するため、『人間社会環境研究』第24号、第26号での報告に引き続き、文楽『曾根崎心中』の受容実態に関する調査を行うと同時に、これまでの調査結果を小括し、今後の調査方法、分析課題、分析の意義などを問うことを目的とするものである。

今回の調査は、海外ではスペイン王国、国内では大阪地域で行った。これまで、海外での調査対象は、ドミニカ共和国、アメリカ合衆国におけるラテン系市民であったが、今回はスペイン文化淵源の地を対象とする。また対照事例として、第24号で扱った国内・北陸地域（文楽鑑賞歴を有する者無）に加え、本稿では文楽の本拠：大阪地域（鑑賞歴を有する者多数を含む）を取り上げた。

調査方法は、前回・前々回と基本的に同じである。自由記述による感想報告を求め、感想が直截に表れる述語部分を中心に分類・分析したことも、従前の通りである。

その結果を小括すれば、「肯定的作品受容」では、海外の3国とも「興味深い」が上位に来ており、国内では、2地域に共通するサンプルが少なかった。述語部分が表現する対象のイメージが喚起されるような、「色っぽい」「いじらしい」など大阪地域独特のサンプルも見られた。「否定的作品受容」では、海外では3か国ともに「退屈だ」が上位を占め、国内ではともに「わからない」が上位であった。「どちらでもない作品受容」では、海外では東西文化相違の指摘や、字幕を要請するものがあり、大阪地域では実演を強調し、歌舞伎との比較を語るサンプルが見られた。

伝統文化が生き続けるためには、まず興味を持たれ、理解されることが肝要である。これまでの調査によれば、海外受容者の感想は「興味深い、理解できず退屈だ」と小括できるものの、字幕の要請が見られることから理解に向けての姿勢も窺われる。さらに、伝統文化の発展に寄与する「最良」へと育っていく鍵が、大阪地域の調査結果に見られた。イメージを喚起する述語部分の対象は演者個人の芸であり、述語部分は「芸の好み」を表現していた。

以上の考察を通して、基盤となる調査に種々の問題が検出された。今後、感想報告の述語部分を分析するためには、調査参加者の条件や調査結果の分類基準の恣意性を改善し、翻訳を中心とする分析の是非を検討する必要があると確認できた。今後の課題としたい。

キーワード

文楽、海外公演、受容

Acceptance of “Sonezaki-Shinju (Love Suicides at Sonezaki),”
a Bunraku play
— In Kingdom of Spain and in Osaka —

Guest Researcher Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies
KASAI Tsukasa
Part-time lecturer
OYA Sonia Keiko

Abstract

We investigated requirements for spreading Japanese traditional culture overseas by focusing on the receptiveness to “Sonezaki-Shinju (Love Suicides at Sonezaki),” which is a Bunraku play. Moreover, previous research was reviewed and future research methods, analytical tasks, and significance of the analyses were discussed. The survey was implemented in the Kingdom of Spain and in Osaka, Japan. To date, overseas studies have been conducted in the Dominican Republic and with Latin American citizens in the USA. The present study dealt with the locus of origin of Spanish culture. Moreover, Osaka, where Bunraku originated was compared. The survey methods were basically identical to former studies. The results indicated that Spanish audiences had an impression that “it is interesting but boring because it is difficult to understand.” On the other hand, they requested subtitles, suggesting their desire to understand. Moreover, a survey in Osaka indicated the key to the cultivation of “patrons,” which contribute to the development of traditional culture. Based on the results above, it was confirmed that it is necessary to improve arbitrariness in conditions of participants and in classification criteria of survey results, and to examine the validity of the analysis focusing on translation, in order to analyze predicate parts of impression reports.

Keywords

Bunraku, Overseas performances, Acceptance

はじめに

文楽は本来、庶民の娯楽であり、日々の労働の緊張から人々を解放する縁であった。しかし、今日の文楽は娯楽からは遠い。とりわけ、若者が積極的に受容するとは言い難い。発生や演目に共通点が多い歌舞伎と比較しても、受容に相違がある。歌舞伎は松竹が興行を続け、受容者も最良役者などを持ち続けている。文楽は1963年、松竹が国に移管して以来、伝統文化の側面が強調されている。共に庶民の娯楽として生まれながら、文楽は人形が演じるため、役者が演じる歌舞伎とは異

質の技芸が求められる。浄瑠璃、三味線、人形遣い共に、技芸のみが鑑賞の対象である。それゆえ、文楽にとっては受容の度合いが特に重要であり、詞章が難しいという日本人も含めて、「浄瑠璃を理解する」という課題は解決すべきである。こうした課題解決の第一歩として、2002年のブラジル・メキシコ文楽公演に関する新聞記事から、ドミニカ共和国での最初の海外調査を試みた。

本稿は、『人間社会環境研究』第24号¹⁾(対象：ドミニカ共和国と国内・北陸地域)、並びに同第26号²⁾(対象：米国内でのラテン系住民)で報告した、文楽の作品受容に関する調査の続報である。

ラテン系市民(スペイン語圏)を対象とした調査は、今回の調査(スペイン王国)で3回目、国内での調査は2回目となり、内容も少し深まってきた。そこで、作品受容の実態について考察を深めるとともに、こういった調査の意義と問題点を小括し、今後の調査の方向を再検討する。

本稿の目的は、伝統文化の事例として文楽を対象に行ってきた受容に関する実態調査の方法について、その問題と解決の方向性を明らかにすることである。それが活きた伝統文化継承に必要なものを考察する第一歩だと考えている。

本稿執筆において、スペインでの調査の段取りと実施、感想報告の翻訳、表1、表2、表3へのスペイン語の付加は雄谷の文責であり、その他は笠井の文責である。

1. 文楽の受容実態調査に関する先行研究

文楽の受容に関する調査は、既に国立劇場が中心となって、「文楽に関する意識調査」を首都圏並びに近畿圏で実施し、それぞれ報告書が作成されている。筆者は、首都圏における平成15年度版³⁾、並びに近畿圏における平成14年度版⁴⁾報告を確認した。そこには、伝統文化全体が現在おかれた実態と公演等への意見などが網羅的に提示されており、文楽が現在抱える問題点の把握と問題解決への手掛かりには充分であった。しかし、質問項目を使用する社会調査は、鑑賞と関わる作品受容の実態把握、即ち作品のどこにどのように感じるかといった具体的な把握には、課題が残るように思われた。

また、文楽海外公演に関する先行研究や調査報告のうち、文楽の受容に焦点を当てたものは、わずかしか確認できなかった。しかし能楽関連であるが、字幕の是非に関しては、その利点と問題点に言及した西野(2008)⁵⁾が簡略ながら大変参考になった。また、伝統文化教育プログラムに関して報告した深澤(2015)⁶⁾には鑑賞者の受容の生の声が見られ、能に関するアンケートの分析は参考になったが、自由記述部分を分類し分析する作

業が見られなかった。そのため、国立劇場が行った調査や深澤(2015)を発展させて、受容の実態を把握できる手法を編み出す第一歩として、海外及び国内で、文楽を観たことがない、もしくは知らない調査参加者を中心に、DVDでの文楽鑑賞と、その後の自由記述による感想報告を求め、それを整理、分類するという形で、調査を継続した。

2. 文楽の受容に関する調査

2.1 調査の目的について

前回までの調査から得られた大きな成果は、話の内容を伝達する言葉について、母語話者である日本人も浄瑠璃で聴きとることが難しくなっている現状と、日本語が分からないドミニカの人々の受容状況とは、「理解できない」ということ自体では似ていることであった。さらに、聞き取りやすい浄瑠璃の会話部分では、日本国内の受容者は作品内容を楽しんでいた。ドミニカの人々も、人形の演技が理解を助けたところもあり、また事前に提示した梗概から作品内容を理解していたこともあってか、内容についての深い鑑賞報告が見られた。このような受容が見られることは、言葉の持つ音声と意味の側面が、それぞれ否定的受容と肯定的受容の要因となっていることを推測させる。同様に、床下の徳兵衛とお初の心中決意の場面においては、日本国内においても若い世代では床下のイメージが変容⁷⁾しており、作品受容にもその影響が見られた。また、人形遣いが鑑賞の妨げになる⁸⁾など、文化が要因と考えられる受容の差異も見られた。

これらの調査結果から、米国内での調査結果を分析する際、言語と文化の違いがその受容を妨げていることにも留意した。それは、そのハンディを検討することで、否定的受容の原因を探り、梗概や鑑賞以前の説明などでそれを補えば、文楽を受容し易く、また、楽しみやすくすることが可能になると考えたからである⁹⁾。

米国内での調査でも、前回の調査結果同様、言語と文化がその受容に干渉していることは明らか

になったが、それだけではなく、全く異なった文化圏での受容の新たな局面や可能性が見えてきた。即ち、お初と徳兵衛の心中について、「なぜ二人で逃げて遠くに行かないのか／なぜ姿を消さないのか／なぜ傷つけあうのか／なぜ他の解決手段がないのか」¹⁰⁾といった疑問が提示されたことであった。これらの疑問は、現代の日本人も抱くような、受容者を取り巻く社会や環境、価値観の相違が反映された疑問であった。同時にこれらの多くは、江戸時代という時代、お初や徳兵衛が属した社会の知識を得ることで、その時代に即した鑑賞が出来る。しかしながら、作品は研究のために存在するのではない。多くの人々がその楽しみ、憩い、刺戟、慰安など、前向きで幸せな時間を過ごすために、等しく提供されるものである。そこで今回は、対照するデータの量が増えたので、分析はドミニカ共和国での調査分析の手順に戻すが、その考察においては、過去2回の調査で提示された文化と言語の違いも踏まえ、原点に戻り、調査方法や分析方法の意義と問題を改めて問うことにした。

2.2 調査方法について

調査参加者：今回、新たに行った調査は2か所であった。スペイン王国における調査参加者は、日本の伝統文化に触れた経験が乏しい、もしくはない同国在住の語学(日本語を含む)学校生23名(平均年齢24.6歳、男女比10対13)であった。また、日本・大阪地域における調査参加者は、主として古典芸能愛好者7名(平均年齢40歳代、男女比0対7、観劇歴がない者から60年余りある者まで)であった。なお調査は、2013年から2014年にかけて行ったものである。

調査手続き：前回までの調査に准じて行ったが、スペイン王国における調査は、終業後の語学学校で、日本語教師の協力により行われた。調査参加者は最初に、作品の梗概を読むよう教示された。梗概は、文楽『曾根崎心中』全体に関して記述されている。続いて、調査手続きについて教示された。調査参加者は、梗概を読み終えたのち、教師

が再生した文楽『曾根崎心中』のDVDによって、天満屋の段を鑑賞した。その後、作品の感想(面白かったところと面白くなかったところについて、それぞれの場所と理由などを中心に記す)を、A4版1枚程度の分量を目安に記述した。調査参加者の記述は調査を行った日本語教師から、パソコンを経由して雄谷へ送信された。調査に先立つ教示は、『人間社会環境研究』第24号¹¹⁾、および同第26号¹²⁾に記述した通りである。

また、国内・大阪地域での調査は、文楽愛好家の協力により、調査用DVDを貸し出し、梗概・調査手続き及び調査前説明書を手渡しすることによって、各自が同じ手続きで鑑賞し、後日、協力が感想報告を回収した。

使用映像：前回同様、文楽『曾根崎心中』録画テープ(2000年3月5日pm 3:00~4:45放映、NHK教育TV)を使用した。NPO法人人形浄瑠璃文楽座より著作権の許可(スペイン王国:2017年5月2日付、大阪地域:2018年1月23日)を、NHKより著作隣接権者の許可(2013年11月6日付)を得た。調査には、「天満屋の段」部分をデジタル化したもの(mpg 2形式720×480ドット)を使用した。

3. 調査結果

分析は前回同様、調査参加者らが報告した感想が、直截に現れる「形容詞的述語部分」に着目して行った。スペイン王国における調査報告は、前回同様に雄谷が翻訳し、笠井が分析し、纏めた。

分類も、前回同様「形容詞的述語部分」で示された作品の評価に関する分類と、「形容詞的述語部分」が評価する対象に関して行った。前者の作品評価に関する分類は、肯定的な評価と否定的な評価に分類し、その評価の対象も文楽の構成要素を基本に言葉、動き、音の3項目をそれぞれ3項目に分け、計9項目とした。さらに9項目にも重複して分類されるが、独自に分類する必要があると思われる、「演出」「視覚」を対象として表現されているところ、「作品構成」、「作品評価」の4

項目を加え、計13項目に分類した。その後、評価対象それぞれが、どのような「形容詞的述語部分」で評価されているのかを確認した。分類の最後に、それぞれの受容において、形容詞的述語部分が記述している内容を確認し、前回の分類を踏まえ、その報告内容ごとの報告数と4か国2地域間の内訳を確認した。

分類作業の基準は、筆者が以下の手順と基準を設けた。まず、翻訳文の述部すべてを書き出し、以下の点を検討しながら分類した。「わかる」と「理解できる」は、日本語ではニュアンスの違いがあるので別に数えた。「遅い」と「少し遅く」のように程度を表す副詞、形容詞に違いや語尾に活用があっても、語幹が同じであれば同じく「遅い」に数えた。「繰り返しが多い」などは感想報告の述部として分けられないので、全体を対象にした。述部と扱えないような長いもの「字幕があったらもっと面白いのかもしれない」のような場合、「もっと面白いのかもしれない」だけを拾うと肯定的作品受容とも取れるため、あえて一文を対象とした。しかし、この処理は今後の課題ではある。また、自由記述によるアンケートを依頼したため、自分の感想とは別に、調査前の教示(文章)に従い同じ内容を纏めている場合が見られた。その場合は、「面白かったこと」「面白くなかったこと」と同じ形容詞が複数回出てくるため、明らかに教示文の引用と判別できる部分を削るなどの処理を、適宜行った。

また、スペイン語を付加するとき、一つのスペイン語に一つの日本語が充当されて翻訳されている場合は、そのままスペイン語を付記した。複数のスペイン語が一つの日本語に訳されている場合は、それぞれが同じ日本語に充当する理由を検討したのち、一つの日本語に複数のスペイン語を付記した。なおスペイン語の付加については、翻訳担当の雄谷が行った。

3.1 調査参加者の作品受容の様態に関する分類

前回までの調査結果に、今回の調査結果を付け加えて、表1から表3を作成した。調査対象国の

増加により、結果が総覧できる表の作成が困難になったため、受容様態の種類によって、「肯定的作品受容」「否定的作品受容」「どちらでもない作品受容」の3項目に分け、国内北陸地域における調査結果を基準とし、同じ、または類似する作品受容が確認された事例を、併記する形で作成した。調査対象国は、前回までの「国内」の項目を「国内・北陸地域」(以下、北陸地域)「国内・大阪地域」(以下、大阪地域)と改め併記し、「海外」の項目を「ドミニカ共和国」,「米国」に加えて「スペイン王国」の順に併記した。受容の分類は、「肯定的作品受容」,「否定的作品受容」,「どちらでもない作品受容」の3項目とした。なお、ドミニカ共和国における調査結果は公刊時のままで、スペイン語が付加されていない。

その結果、「肯定的作品受容」に関しては、表1「A(肯定的作品受容)」(以下、表1)に示す通りである。「スペイン王国」では、「興味深い」が11例で最も多かった。次いで「面白い」が9例、「気に入った」が6例見られた。「印象的だ」「美しい」はそれぞれ3例、「理解できる」「好き」「魅力的だ」「注意を引く」「巧みだ」「独特だ」「魅了させそうだった」がそれぞれ2例ずつ見られた。そのほかは1例ずつであった。

「大阪地域」では、「良い」と「美しい」がそれぞれ4例で最も多かった。次いで「面白かった」「すごかった」「可愛い」「いろっばい」が2例ずつ確認されたが、その他の用例は1例ずつであった。

次に、「否定的作品受容」に関しては、表2「B(否定的作品受容)」(以下、表2)に示す通りである。「スペイン王国」では、「退屈だ」「遅い」が10例で最も多かった。次いで「理解できなかった」が7例で、「長い」が5例、「わからない」が4例であり、「難しい」「単調」「大変だ」「好きではない」「ない(動き)」がそれぞれ2例見られた。そのほかは1例ずつであった。

「大阪地域」では、「わからない」が3例で最も多かった。次いで「理解できなかった」が2例見え、その他は1例ずつであった。

「どちらでもない作品受容」に関しては、表3「C

表 1 肯定的作品受容

A (肯定的作品受容)

国内		海外		
北陸地域	大阪地域	ドミニカ共和国	米国	スペイン王国
形容詞的述語部分	形容詞的述語部分	形容詞的述語部分	形容詞的述語部分	形容詞的述語部分
サンプル数	サンプル数	サンプル数	サンプル数	サンプル数
面白かった (視境的)	面白かった	面白い	面白かった (Ser divertido, ser cómico)	面白い (Ser divertido, cómico, interesante)
よく分かった			分かりやすいくなる (Hacerse fácil)	完全に理解できる (Entender perfectamente)
滑稽だった		面白い (滑稽)		
		おかしい (滑稽)		
緊張感があった				
思いの強さを感じた				
意識して聴いていた				
印象に残った		印象的だ	印象的だ (Ser impresionante)	印象的だ (Ser impresionante)
切迫感があった				
息遣いが感じられた				まるで生きていくようで (Parecer como si viviesen)
今の世にもあると思った	リアルだ			リアルだ (Ser realista)
目を奪われた	うっとり			目を引き (Ser llamativo)
共感した				
興味があった		興味深い	興味深い (Ser interesante)	興味深い (Ser, parecer interesante)
	良い	よい	よい (Estar bien, Ser bueno)	全体的に良い (Estar bien)
	長く出ている	わるくない		
	美しい	美しい	美しい (Ser hermoso, Ser precioso)	美しい (Bonito)
		きれいだ	綺麗だ (Ser bonito, Estar bonito)	綺麗だ (Ser bonito)
		好きだ		好き (Gustar)
	魅力が一杯	魅力的だ	魅力的だ (Parecer fascinante)	魅力的だ (Hacerse atractivo, fascinante)
	胸を打つ	感動的だ	感動的だ (Ser conmovedor, Impresionarse)	
		天才的だ		
	世界の興行ぎが生まれる	効果的だ		
		芸術的だ		

北陸地域		大阪地域		ドミニカ共和国		米 国		スペイン王国	
形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数
				光栄だ	1				
				巨匠だ	2	この芸術の巨匠だ (Ser maestro)	1		
				完璧だ	3	完璧だ (No faltar detalle)	1		
トキドキする	1	驚くべきところだった	1	驚いた (Sorprenderse)	1	驚異的だ (Maravilloso)	1		
何度も通いたい	1	好奇心を持つ	1						
引き込まれた	1	注意を引く	2	注意を引く (Levantat atención)	1	注意を引く (Llamar la atención)	2		
言葉以上に伝わるものがある	1	よく表現されている	4	よく表現されている	4		1	上手く表現している (Gustar, conjunto de trabajo)	1
				気に入る	1			気に入った (Gustar)	6
				目立つ	1				
				楽しんだ	3	楽しむ (Disfrutar)	1		
				一番成功している場面だ	1				
すこかった	2			素晴らしい (Ser extraordinario)	1	素晴らしい (Ser extraordinario)	1		
ユーモラス	1			ユーモアを映し出す (Reflejar humor)	1	ユーモアを映し出す (Reflejar humor)	1		
				手が込んでいる (Estar elaborado)	2	手が込んでいる (Estar elaborado)	2		
				高い能力を持っている (Tener gran talento)	1	高い能力を持っている (Tener gran talento)	1	高い (技術) (Bueno)	1
				的確だ (Ser preciso)	1	的確だ (Ser preciso)	1	邪魔にならない (Sin dificultar)	1
				厳密だ (Ser exacto)	1	厳密だ (Ser exacto)	1		
				豊富な経験を持つ (Tener mucha práctica)	2	豊富な経験を持つ (Tener mucha práctica)	2		
				詳しい専門家だ (Ser experto)	1	詳しい専門家だ (Ser experto)	1	巧みだ (Maestría, limpio)	2
				様々な感情に満ちた (Una obra llena de emociones de diferente tipo)	1	様々な感情に満ちた (Una obra llena de emociones de diferente tipo)	1	表現に富む (Ser muy expresivo)	1
				複雑だ (Ser complejo)	1	複雑だ (Ser complejo)	1		
繊細	1			繊細だ (Ser sutil)	1	繊細だ (Ser sutil)	1		
				大変な才能を持っている (Tener mucho talento)	1	大変な才能を持っている (Tener mucho talento)	1		
				練習が必然的 (Conllevar práctica)	1	練習が必然的 (Conllevar práctica)	1	熟練されている (Estar logrado)	1
				連帯感がある (Tener coordinación)	1	連帯感がある (Tener coordinación)	1	人形と同化 (Ayudar a moverse con los marionetas)	1
				能力に気が付いた (Notar talento)	1	能力に気が付いた (Notar talento)	1		
				よく演じられている (Estar bien ejecutado)	1	よく演じられている (Estar bien ejecutado)	1		
				賞賛に値する (Ser admirable)	1	賞賛に値する (Ser admirable)	1		

北陸地域		大阪地域		ドミニカ共和国		米国		スペイン王国	
形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数
						好感を持った (Ser gracioso)	1		
						優雅だ (Parecer elegante)	1		
						勉強になった (Fue un aprendizaje)	1		
		一度の報酬では味わいきれない	1			興味が薄れることはなかった (No dejar de ser interesante)	1	最後まで見たい (Hacer quedar en la silla)	1
		洒落てて	1			洗練されている (Estar exquisitamente hecho)	1	洗練されている (Estar logrado)	1
		引退が残念	1			途方もない仕事をした (Hizo un trabajo fabuloso)	1	特筆したい (Destacar)	1
		嬉しい	1						
		いじらしい	1						
		飽めかしい	1						
		毅然としている	1						
		可愛い	2						
		色っぽい	2						
		いとおい	1						
								独特だ (Peculiar, bastante divertido, me sorprende que una misma persona haga todas las voces, llegando a ser poco entendibles haciendo la representación un poco aburrida)	2
								推薦したい (Recomendar)	1
		癒された	1					癒させようだった (Ser hipnotizante, encantar)	2
								独創的だ (Parecer original)	1
								ロマンチックな感情表現だ (Forma romántica de comunicarse)	1
								深い (Intenso)	1
								リラックスさせてくれる (Relajante)	1
								調和がとれていた (Presentar armonía)	1
		品がよい	1						
		睡いていることを忘 れさせてくれる	1						
		奥深い	1						
		かみしめる	1						

表 2 否定的作品受容

B (否定的作品受容)

国内		海外							
北陸地域		大阪地域		ドミニカ共和国		米 国		スペイン王国	
否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数
				おかしい(変だ)	1	おかしかった(Ser cómico)	1		
				よくない	2				
				むずかしい	1	難しい(Resultar difícil)	1	難しい(Resultar difícil, ser poco entendible)	2
				理解できなかった	2	理解できなかった(No entender)	1	理解できなかった(No entender, no poder entender, dificultar la comprensión)	7
よく分からなかった	7	わからない	3	わからない	2	わからない(No entender)	3	分からなくなる(No enterarse, no entender, no saber)	4
視覚的に刺激がない	1			単調だ	1	単調だ(Parecer monótono)	2	単調(Hacerse monótono, pesado)	2
				退屈だ	6	退屈だ(Ser aburrido, encontrar aburrido)	5	退屈だ(退屈にした)(Hastiar, parecer aburrido, ser aburrido, hacerse aburrido, hacerse pesado)	10
				つまらない	1				
				奇妙だ	2				
				大変だ	2			大変だ(Costar mucho comprender, ser complicado)	2
				あまり好きではない	4			好きではない(gustar menos, no gustar)	2
				気が散る	1	気が散る(Causar distracci on)	1		
				違和感を持つ(不快感)	5			違和感を感じた(Ser molesto)	1
				戸惑う	1	戸惑った(Un poco perdido)	1		
				感動が薄れてしまう	1				
						ゆっくりとした(Ser lento)	2	ゆっくりで(Ser lento)	1
						長い(Ser largo)	4	長い(Parecer largo, hacerse largo, ser largo)	5
						堅苦しい(Ser serio)	1		
						悲しそうだ(Sonar triste)	1		
						少ない(Ser poco)	2		
						目立つ(Estar muy visible)	1		
						女性の方が良い(Hubiera sido mejor usar voz de mujer)	1		
						暗い(Estar oscuro)	1		

北陸地域		大阪地域		ドミニカ共和国		米国		スペイン王国		サンプル数
否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	否定的作品受容	サンプル数	サンプル数
						簡単ではない (No ser fácil)	1			
						列決のように昇える (Aparentar confrontamiento)	1			
						寝てしまった (Por poco dormirse)	1	眠くなった (Dar ganas de dormir)	1	
						笑ってしまった (Causar risa)	2			
						悪ふざけな金切声に似ていた (Parecer chillido)	1			
						微笑んでしまった (Hacer sonreír)				
						途方もないことに思える (Parecer insólito)	1			
						面白くない (Parecer insípido)	1	面白くなかった (Menos interesante)	1	
						同じものだ (Mantenerse igual)	2			
						変化が必要だ (Necesitar cambio)	2			
						(声調が) 似ていた (Ser parecido las tonalidades de las voces)	1			
						理解するのが難しかった (Me resultó difícil saber lo que estaba pasando)	1			
						注意を払わなければならなかった (Tuve que prestar mucha atención)	1			
						遅い (Ser lento)	1	遅い (Parecer lento, ser lento, lentitud, hacerse lento)	10	
バランスを崩した	1									
								良く鑑賞できなかった (No poder apreciar bien)	1	
								足りないのではないか (Faltar acción)	1	
								ない (動き) (Parado, sin moverse)	2	
								少し怖い (Dar miedo)	1	
								繰り返しが多い (Repetitivo)	1	
								それほど綺麗ではない (No ser tan bonito)	1	
								ついていけない (Perdarse)	1	
								調子はずれ (Chirriante)	1	
						時間がかかる	1			
						もうええねん	1			
						ほら次々と思う	1			
						小さい	1			

表3 どちらでもない作品受容

C (どちらでもない作品受容)

国内	海外	国内	海外	国内	海外
大阪地域	米国内	形容詞的述語部分	形容詞的述語部分	サンプル数	サンプル数
	悲しそつだ (Sonar triste)		1		
	悲劇的だ (Ser dramático)		3		
	暗い (Estar oscuro)		1		
	物悲しくする (Hacer sonar triste)		1		とても悲しそつにみえた (Apreciar que es muy triste)
	悲しい (Ser triste)		3		
	少ない (Ser poco)		1		
	一番感情が反映される (La parte que más emoción refleja)		1		
	この芸術の複雑さを示す (Señalar la complejidad de este arte)		2		
	西洋文化圏のものでない (No ser parte de la cultura occidental)		1		東洋人が...その反対もかりである (Para lo que un oriental encuentra fascinante, para un occidental puede ser tedioso y al revés)
	経験がなかった (No tener experiencia)		1		
	みたことがなかった (Nunca heber visto)		1		
	操作が難しそつだ (Parecer difícil de manipular)		1		
	その理由や意味もわからなかったらう (No hubiese sabido ni el significado ni el por qué)		1		
	粗筋がなければ理解できなかつた (Si no hubiese sido porque sabía de lo que se trataba hubiese sido imposible verla)		3		
	字幕付きで見えたかつた (Me hubiese gustado verla con subtítulos)		1		字幕があつたらつとも面白いのかもしれない (Quizás si estuviera subtitolado sería más interesante)
					1

大阪地域		米国		スペイン王国	
形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数	形容詞的述語部分	サンプル数
		作品の起源や時代を調べたい (Me motivé a hacer investigación sobre su origen y época)	1		
		気の毒だ (Dar pena)	1		
派手さはない	1				
舞台の方が好き	1				
歌舞伎では全くうつくしくない	1				
				独特な (Peculiar)	1
				慣れない (No estar acostumbrado)	2
				かわっている (Parecer raro)	1
				驚く (Sorprenderse)	2

注) 表中, スペイン王国「東洋人が…その反対も…その反対も…その反対も」の全文は以下の通りである。「東洋人が魅力的と感じる作品も西洋人に退屈かもしれず, その反対も…その反対も」。

(どちらでもない作品受容)」(以下, 表3)に示す通りである。「スペイン王国」では, 「慣れない」「驚く」が2例見られたほかは, 「とても悲しそうにみえた」「東洋人が…その反対も…その反対も」である。「字幕があつたらもっと面白いのかもしれない」「独特な」「かわっている」がそれぞれ1例見られた。

「大阪地域」では, 「派手さはない」「舞台の方が好き」「歌舞伎では全くうつくしくない」がそれぞれ1例みられるだけであった。

以上の詳細は, 表1~3を参照されたい。

3.2 作品の構成要素別分析

調査参加者の感想報告から, 文楽の構成要素を基本に分類した報告数の比較を, 前回までの結果とも対照した表4を作成した。

「スペイン王国」38例・「大阪地域」17例, ともに「作品評価」の報告数が最も多く, 「ドミニカ共和国」22例・「米国」31例と同じ結果であったが, 報告数は「大阪地域」と「ドミニカ共和国」が近く, その倍近い報告数が, 「米国」と「スペイン王国」で見られた。一方「北陸地域」は8例で, 6番目の報告数であり, 最も, 報告数が多いのは, 「演出」の26例であった。

「演出」の報告数は, 同じ国内の「大阪地域」は6例で3番目の報告数であるが, 海外3か国はともに2番目に多く, 「ドミニカ共和国」の16例, 「米国」の16例, 「スペイン王国」の20例がそれぞれの国に於ける2番目の報告数である。ただ, 「ドミニカ共和国」は「演技」「浄瑠璃」も共に16例で同位である。「大阪地域」は, 6例で3番目の報告数であるが, 「浄瑠璃」も同位である。

「北陸地域」で, 19例で2番目に報告数が多いのは「演技」であるが, 「ドミニカ共和国」も同位である。「米国」「スペイン王国」は3番目に多い報告数で, それぞれ14例と18例見られた。

また, 「北陸地域」で, 15例で3番目に多かった言葉の「内容」は, 海外3国では「米国」と「スペイン王国」が6番目で, 「ドミニカ共和国」は8番目だが, 報告数は「ドミニカ共和国」8例,

表4 文楽の構成要素を基本とした分類別報告数の比較

作品構成要素	言葉		動き				音			演出	視覚	作品構成	作品評価
	内容	語	表現	演技	舞踊的表現	その他	浄瑠璃	三味線	その他				
										(日本国内、北陸地方)			
用例数	15	7	6	19	0	0	6	3	5	26	9	10	8
										(日本国内、大阪地方)			
用例数	1	2	1	15	0	1	6	1	0	6	1	1	17
										(ドミニカ共和国内)			
用例数	8	0	0	16	5	15	16	14	0	16	12	4	22
										(米国内)			
用例数	8	3	3	14	1	13	8	2	2	16	10	2	31
										(スペイン王国内)			
用例数	5	1	3	18	1	13	14	4	3	20	3	4	38

「米国」8例「スペイン王国」5例であった。「大阪地域」では、1例しかなかった。

「米国」14例・「スペイン王国」18例で、3番目に報告数が多かったのは「演技」であるが、そのほかの国や地域では、2番目に多かった。

続いて「スペイン王国」14例で4番目に多かった「浄瑠璃」は、「ドミニカ共和国」では16例で2番目、「大阪地域」では6例で3番目に多かった。報告数は6例でおなじであるが「北陸地域」では8番目であった。「米国」では8例で、6番目に多かった。

動きの「その他」は、「ドミニカ共和国」では15例で5番目、「米国」では13例で4番目、「スペイン王国」では「米国」と同数で5番目であった。一方国内では、「北陸地域」報告なし、「大阪地域」では1例であった。

続いて、肯定的、否定的また、その他、それぞれの場合、形容詞的述語部分が記述する内容を、「人形」「演出」「舞台」「浄瑠璃」「三味線」「効果音」「作品内容」「言葉」の8項目について、調査を行った4国間（国内は2地域）で比較するため、表5を作成した。この項目は、前回までと同様である。

表5によれば、調査参加者の報告数が最も多

かった報告内容は、「肯定的受容」の「人形」であり、121例であった。その内訳は、「ドミニカ共和国」38例、「米国」33例、「スペイン王国」31例、「北陸地域」2例、「大阪地域」17例であった。同じ、「人形」の「否定的受容」は15例で、内訳は、国内は2地域とも報告例がなく、「ドミニカ共和国」8例、「米国」7例、「スペイン王国」3例となっている。「その他」は2例だけで、「米国」で2例であった。

続いて2番目に報告数の多い内容は、「演出」の35例であった。その内訳は、「ドミニカ共和国」11例、「米国」7例、「スペイン王国」8例、「北陸地域」6例、「大阪地域」3例であった。「演出」の否定的受容は、32例であり、「否定的受容」では最も事例が多かった。その内訳は、「ドミニカ共和国」1例、「米国」と「スペイン王国」は共に12例、「北陸地域」4例、「大阪地域」3例であった。「その他」は、「米国」に3例見られたのみであった。

3番目に報告数が多かったのは、「肯定的受容」の「作品内容」で33例あった。その内訳は、「ドミニカ共和国」4例、「米国」8例、「スペイン王国」11例、「北陸地域」9例、「大阪地域」1例で

表5 肯定的, 否定的, またはその他の受容報告について, その内容ごとの報告数と3国間の内訳(日本(北陸地方:大阪地方):ドミニカ共和国:米国:スペイン王国)

肯定的受容		否定的受容		その他	
報告内容	報告数	報告内容	報告数	報告内容	報告数
人形	121 (2:17:38:33:31)	人形	15 (0:0:8:7:3)	人形	2 (0:0:0:2:0)
演出	35 (6:3:11:7:8)	演出	32 (4:3:1:12:12)	演出	3 (0:0:0:3:0)
舞台	7 (0:0:5:0:2)	舞台	2 (0:0:0:2:0)	舞台	1 (0:0:0:1:0)
浄瑠璃	14 (0:4:2:0:8)	浄瑠璃	26 (4:2:6:6:8)	浄瑠璃	2 (0:0:0:2:0)
三味線	9 (1:1:5:0:2)	三味線	14 (0:0:6:6:2)	三味線	1 (0:0:0:1:0)
効果音	6 (4:0:0:0:2)	効果音	2 (1:0:0:0:1)	効果音	0 (0:0:0:0:0)
作品内容	33 (9:1:4:8:11)	作品内容	26 (0:0:1:7:18)	作品内容	12 (0:0:0:10:2)
言葉	10 (5:2:1:2:0)	言葉	10 (0:1:2:2:5)	言葉	3 (0:0:0:3:0)

あった。同「否定的受容」では、26例あり、その内訳は、「ドミニカ共和国」1例、「米国」7例、「スペイン王国」18例であり、国内の2地域は共に報告がなかった。同「その他」では、12例あり、その内訳は「米国」が10例、「スペイン王国」が2例であった。

更に、「浄瑠璃」でも、「否定的受容」が26例見られ、内訳は、「ドミニカ共和国」と「米国」が共に6例、「スペイン王国」8例、「北陸地域」4例、「大阪地域」2例であった。同「肯定的受容」は14例報告されており、内訳は、「ドミニカ共和国」2例、「スペイン王国」8例、「大阪地域」4例であった。「米国」と「北陸地域」では報告が無かった。「その他」では、「米国」の報告2例のみであった。

そのほか、「言葉」では、「肯定的受容」「否定的受容」共に10例報告が見られ、「肯定的受容」の内訳は、「ドミニカ共和国」1例、「米国」2例、「北陸地域」5例、「大阪地域」2例であり、「スペイン王国」では見られなかった。また「否定的受容」の内訳は、「ドミニカ共和国」2例、「米国」2例、「スペイン王国」5例、「大阪地域」1例で、「北陸地域」は報告がなかった。「その他」は、「米国」の報告3例のみであった。

続いて、「三味線」の「肯定的受容」は9例報告があり、内訳は「ドミニカ共和国」5例、「スペイン王国」2例、国内の両地域各1例で、「米国」の報告はなかった。同「三味線」の「否定的受容」

で14例の報告があり、内訳は「ドミニカ共和国」と「米国」が各6例、「スペイン王国」2例で、国内の両地域の報告はなかった。同「その他」は、「米国」での報告1例のみであった。

「舞台」と「効果音」は、「肯定的受容」では、それぞれ7例と6例の報告が見られる。内訳は、「舞台」は「ドミニカ共和国」5例、「スペイン王国」2例で、「米国」と国内両地域では報告がなかった。「効果音」では、「スペイン王国」2例、「北陸地域」4例で、「ドミニカ共和国」、「米国」、「大阪地域」では報告がなかった。また、「舞台」の「否定的受容」は「米国」での報告2例のみであった。同「その他」も「米国」での報告1例のみであった。一方、「効果音」の「否定的受容」は2例で、「スペイン王国」1例、「北陸地域」1例である。「その他」は報告がなかった。

4. 調査結果に関する考察

考察に先立ち、こういった自由記述の調査は、調査に要する時間など調査参加者の負担が大きく、協力が得られるだけでも有難いことをお断りしたい。そのため、今回の調査参加者にも、何らかの偏りを含む場合もあった。中にはDVDでの作品鑑賞に慣れていないだけでなく、文章を書くことに不慣れな調査参加者もいる。調査参加者の年齢や教育環境、日本への留学経験、また、その際の文楽鑑賞経験など実態は様々である。その結

果も当然、同じ条件での比較対象にはならない。それらを念頭に置きつつ、以下を考察した。

今回新たに加わった調査は、「スペイン王国」と「大阪地域」での調査であった。

海外での感想報告では、「綺麗だ」「感動的だ」「巨匠だ」「上手く表現している」「気に入った」「高い能力を持っている」「巧みだ」「表現に富む」「熟練されている」「人形と同化」「洗練されている」「途方もない仕事をした」など、述語部分が「人形」や「人形遣い」「視覚的なもの」について述べたことが推測できるような、具体的な述語部分が海外調査国の2か国、または3か国で共通していた。

「リラックスさせてくれる」という述語部分は、今回、「スペイン王国」で初見だった。このような感想を述べる事例を筆者は知らない。個別で恣意的だが、自発的な感想であり、「米国」での調査のおり感じた、国内とは違う、調査対象国独自の考え方や感じ方が反映された感想に通じる受容であった。

「否定的受容」においては、全体に共通する述語部分は「わからない」であり、類似する「理解できない」もほぼ共通する。また述語部分は、「視覚的に刺激がない」と「単調だ」で差異があるが、「視覚的に刺激がない」は単調さを視覚に限定したと考えて、類似するものと考えたが、これらも全体に共通する。さらに「遅い」も海外と国内にほぼ共通する述語部分であった。こういった感想報告は、特に「わからない」が、国内では若い世代に多く、これも教育的配慮によって文楽人口の増加が望める感想であった。

その他、海外で共通して見られた述語部分は、「難しい」「退屈だ」が3カ国に共通し、「おかしい（変だ）」「好きではない」「気が散る」「戸惑う」「ゆっくりとした」「長い」「眠くなった」「面白くなかった」などがほぼ海外で共通した。大阪地域でも、述語部分は異なるが「時間がかかる」「もうええねん」「ほら次々と思う」といった述語部分も僅かにあるので、「退屈」「眠くなる」の原因が海外・国内に類似していること、テンポにある

ことがわかる。しかしながら、この点は好みの恣意的な部分だから、合わない人はどうしようもないが、文楽全体のどこかに興味を持ち聴き続ける、通い続けることで、浄瑠璃のテンポに慣れるものではなからうか。この退屈さは一面、「肯定的作品受容」の「リラックス」に通じるものでもあるので、筆者はどこかに興味があれば、慣れによって克服できることだと考えている。

「どちらでもない作品受容」に関しては、字幕の必要や、東洋と西洋の違いに言及するなど分析的な感想報告が目立ち、当初の考えとはやや異なり、調査目的を考え、述語部分だけではなく該当箇所一文を取り上げた。こういったことも、調査結果の纏めとして基準に問題が生じることなので、今後の検討を要する点であった。

続いて、述語部分が記述する内容を検討するため、主として、その主語部分の用例を肯定的否定的一様に確認すると、数の上では、「作品評価」「演出」「動きの演技」「言葉の内容」「音の浄瑠璃」が多かった。海外と国内では、少し違いがあるが、肯定も否定も同時に拾ったため、とりあえず文楽で気になる場所の傾向が窺えたと思われる（表4参照）。

この内容を少し深めると表5で検討した「肯定的受容」「否定的受容」「その他」それぞれの受容報告の内容ごとの内訳となる。この表では、「その他」を設けたが、最初の『人間社会環境研究』第24号では、「どちらでもない作品受容」を設けずに、肯定否定どちらかに必ず分類したため、「バランスを崩した」というパソコンでの再生の問題に言及する報告を「否定的受容」に分類した¹³⁾。これは「どちらでもない作品受容」に分類すべきであったが、現在までの調査とその報告は、こういった調査の意義と問題、その方法の可能性を問うものであったので、あえて分類訂正をしなかった。

このように問題を残す調査ではあるが、表5において、人形の肯定的受容報告数が121と極めて多いことは、明らかに人形への関心の大きさを示しており、演出や作品内容がそれに続いて多いも

の、肯定的、否定的と結果を二分していることも、言葉や習慣の違いからくる作品受容の難しさや好悪の問題などが関係していることは、今まで確認してきた通りであることが数値からも確認できる。

「大阪地域」の調査は、国立文楽劇場を持つ大阪府での調査ということもあり、文楽愛好家である調査協力者の交友関係の中で、観劇歴も記入して貰った鑑賞報告となった。その結果、従来の分析結果では「浄瑠璃」「三味線」「人形」に分類されるが、今回は「浄瑠璃」で「綱大夫（現、源大夫）」、「人形」で「文雀」など、演者の個人名が見られたことと、「歌舞伎」上演の『曾根崎心中』も観劇の経験があり、その比較に言及している報告があったことが特徴的であった。これらの中には、かなり熱くその芸の面白さや比較に言及した報告もあり、古典芸能が生き続けるには、演者個人（大夫や三味線、人形遣い）の魅力が重要であることが再確認された。最良は、同じ演目を何度も繰り返し観劇し鑑賞を深めるだけでなく、今回の鑑賞報告における「歌舞伎」のように、同じ演目が上演形態を変えて上演されたものも観劇する。そうすることによって、作品の異なった面が見え、より文楽の面白さや本質が見えてくる。

以上の鑑賞報告と、文楽の鑑賞経験が少ない、または全くない海外での鑑賞報告とを比較した場合、最良が育つ道筋について、次のような事柄が想定出来よう。まず鑑賞の機会を作り、その後の鑑賞回数を増やすために、面白いと理解するための教育を行う必要がある。鑑賞者は自身の好みで、作品鑑賞を生活の中に取り込んでいく。教育に際しては、作品の理解だけでなく、文楽が伝統文化であり、国際化の時代には大切な自己表現の一つであることも、同時に理解させることが肝要であろう。文楽だけではないが、長い時間の中で生まれ、伝統の域に到達した芸能は、我々自身の心を体現するものであり、自己に回帰するものである。さらに舞台を実際に鑑賞する機会を増やすには、舞台でしか体験できない魅力に気づくことが重要である。それは、「大阪地域」の鑑賞報告に基づ

けば、歌舞伎との比較で文楽での上演を選択するという鑑賞者の好みの形成であった。この好みは、個別のものであり、恣意的なものであるが、同時に、こういった個別性、恣意性が最良ともいえるので、早い時期に自分好みの大夫や三味線弾き、人形遣い（人形）に出会えることが最良となる鍵の一つである。

調査結果では、その好みが形容詞的述語部分（以下述語部分と称す）にも顕著に表れている。

まず、従来の調査結果で「肯定的作品受容」に使われたのは「面白い」「印象的だ」「興味深い」「よい」「美しい」「魅力的だ」などが調査対象地域に共通していた。ほかにも「驚いた」「注意を引く」も「北陸地域」以外に似通った述語部分の報告が見られたが、文脈から「大阪地域」の「ドキドキする」は作品や演技と調査参加者の一体化した情動であり、一方「驚いた」は未知の出来事に対する情動である。また、「引き込まれた」は自分の関心と関わらない情動であるのに対し、「注意を引く」は自分の関心と関わる情動である。これらを類似する述語部分として分類したのは、厳密に分類すれば、同じ括りには入らない。しかし、可能な限り「肯定的作品受容」の様態傾向を「形容詞的述語部分」から探りたいという試みから、文脈から繋がりがあがるのではと推測された場合、同じ括りに入れた。この点は、今後の検討が必要だと考えている。

上記の述語部分は、好みを反映するというより、感想を反映している。一方、「大阪地域」だけに見られたものは、「引退が残念」「嬉しい」「いじらしい」「艶めかしい」「毅然としている」「可愛い」「色っぽい」「いとおいしい」など、具体的で、述語部分が表現する対象のイメージを喚起させるものであった。しかし、この点は、今回は指摘にとどめたい。

5. 結びにかえて

筆者らは、当初、日本と全く異なった気候風土の国でも文楽『曾根崎心中』が歓喜の声で受容さ

れている新聞記事¹⁴⁾から、その受容の実態を調査する必要を考えた。その一つの方法として、文楽鑑賞の経験がない調査参加者が鑑賞する、その感想報告を自由記述で求め、作品受容と最も関わると考えられる「形容詞的述語部分」の分析を考えた。しかし、鑑賞に30分近い時間を要し、その後感想を記述することは、調査参加者にかなり負担となる調査方法であった。そのため、調査参加者の条件を整えることはできなかった。

この点について、筆者らはこう考える。文楽公演の観客には、様々な年齢、性別、環境の人々が含まれる。多様な人々が抱える鑑賞の問題点の抽出には、まず、それぞれの生の感想報告が必要であった。今までの5回の調査は、言葉や数によって、問題の所在を十分に明らかにしてきた。今後は、その問題解決の道を追求するため、調査対象を限定し、分析も確固とした基準を設け、手法を確定する必要がある。そのためには、今まで述べてきたように、翻訳を中心とする分析の是非、分析した日本語に相当する言語を補う場合の方針を確定しなければならない。また、分析作業においては、厳密には同じ述語部分ではないが類似する場合の処理や、「どちらでもない作品受容」に主に生じた述語部分だけでは拾う意味をなさない場合の処理をどのようにするかといった問題を解決しなければならない。

問題は多々残った。それでも、こういった調査は必要であると筆者は述べたい。それは、伝統芸能であっても、芸能は人々とともに存在するものであるからだ。人々と切り離された芸能は存在する意味も失う。生きた人間の生と深く関わり、その生を支え、人を人たらしめてきたもの、それが芸能であるからである。

について—文楽『曾根崎心中』の受容を例に—」『人間社会環境研究』第24号、金沢大学大学院人間社会環境研究科、2012、pp.115-175.

- 2) 笠井津加佐、雄谷ソニア啓子「文楽『曾根崎心中』の受容に関する一報告 — 米国居住ラテン諸国の人々の場合—」『人間社会環境研究』第26号、金沢大学大学院人間社会環境研究科、2013、pp.219-236.
- 3) 国立劇場調査養成部調査資料課『平成15年度文楽に関する意識調査（首都圏）報告書』社団法人新情報センター、平成16年3月31日。
- 4) 国立劇場調査養成部調査資料課『平成14年度文楽に関する意識調査（近畿圏）報告書』社団法人新情報センター、平成15年3月31日。
- 5) 西野春雄「能界展望（平成十七・十八・十九年）」『能楽研究』33、2008、pp.111-134.
- 6) 深澤昌夫「参加・体験型学習を取り入れた伝統文化教育プログラムの研究」『日本文学ノート』50、2015、pp.62-97.
- 7) 前掲拙稿1), p.163.
- 8) 前掲拙稿1), p.163.
- 9) 前掲拙稿2), pp.228-231.
- 10) 前掲拙稿2), p.231.
- 11) 前掲拙稿1), p.157, p.165.
- 12) 前掲拙稿2), p.222.
- 13) 前掲拙稿1), p.158.
- 14) 初のブラジル・メキシコ公演記事。「お初・徳兵衛に「太陽の国」喝采(略)次の瞬間。「ブラボ！ブラボー！」。1階前列から波が広がるように、5層のバルコニー席を含めた全員が立ち上がり、喝采を送る」(朝日新聞、2002、11、6)。

【注】

1) 笠井津加佐、雄谷ソニア啓子、吉田千里「日本・ドミニカ共和国両国における日本伝統文化の受容